

小島ゆかり ◎歌人

辻原登 ◎作家

長谷川權 ◎俳人

## 半歌仙 『失はれた手袋の巻』



昨年十月二十五日に横浜市の神奈川近代文学館で、第十二回湘南連句座談会が開かれた。三人の選者の「発句」「脇」と第三から第六句に続けて、参加者が楽しみながら句をつけ、半歌仙十八句を巻き上げた。

### 片手袋の行方は？

長谷川 東海大学文学部では十年前から年に一度、湘南連句座談会を湘南キャンパスで行なってきました。二〇一四年に神奈川近代文学館が開館三十周年を迎え、辻原先生が館長を務める関係で、こちらで湘南連句座談会を開催し、二〇一五年もお邪魔することになった次第です。連句と聞くと、高尚かつ優雅な遊びに思えるかもしれませんが、精神は、みんなが集まり、日本語で遊ぼうというものです。あまり規則にとらわれず、自由にやってください。今回の題は「失はれた手袋の巻」。発句「落ちてゐる片手袋や昼の月」は小島ゆかりさんです。

小島 ちょっと色っぽい感じの女性の手袋が片方落ちていたんです。そして昼の月が出ていた。この手袋がいつどのようにして落ちたかはわからないのですが、月は知っている。そんなことも暗示しています。

長谷川 それに辻原登さんが「鬮汁の具を買ひに出て不明」と脇をつけ、やや怪しい感じになっています。

辻原 鬮汁というのは暗闇の中で鍋をして食べること、それを今夜主催しようと思ひ立ち、具を整えるのは、

昼の月が出ている明るいうちからです。何を具材にしようか考えながら道を歩いていると、手袋が落ちていた。そこで思ったのは、これはヒットマンのものではないか、と。

小島 話がどんどん膨らみますね。

辻原 実際に今、山口組が分裂して抗争が起きています。一万人以上の広域暴力団が分裂すると、相手を壊滅させるくらいにしないと成り立たない。そうすると、少なくとも二十いや三十人のヒットマンを雇って配置する。そのうちの誰かの皮手袋が片方落ちていた。長谷川權さんのことではありませんが（笑）、裏の俳人のもとへ表の俳人社会からヒットマンが送られ、鬮汁どころではなく逃げて行ったということになります。

長谷川 第三は僕の句ですが、前の句でヒットマンか誰かが行方不明になったので、どこへ行つたのでしょうか。行方不明の何が現れるというのが第三の句、「まぼろしの創作ノート現れて」です。ちょうどこの第三を考えているとき、谷崎潤一郎の未発見の手紙が現れたというニュースを耳にしました。手紙を創作ノートに変えています、どちらも今後その内容が明らかになっていくことでした。

小島 第四では、この幻の創作ノートの主は谷崎潤一

### 半歌仙「失はれた手袋の巻」

〔初折の表〕

発句 落ちてゐる片手袋や昼の月	ゆかり
脇 鬮汁の具を買ひに出て不明	登
第三 まぼろしの創作ノート現れて	權
四 野薔薇の丘でなびくスカート	ゆかり
五 ひんやりと匂ひただよふ細き首	登
六 さても哀しき妖怪の絵図	權
〔初折の裏〕	
初句 右上上ル下ルは京の町	千枝
二 憂国者たちは自転車に乗る	むつみ
三 木枯やビザまん二つ売れ残り	三智子
四 豊後水道つれて逃げてよ	明笛
五 青天にドクロの旗のひるがえり	茂
六 油田の荒地コスモスの咲く	信
七 月白や爆撃の音今日もして	忠子
八 コクリコ坂を落ちる椽の実	正和
九 見渡せばはるか遠くに雲の群れ	祥平
十 腹の立つこと投げよ春野へ	正和
十一 借りてきた本にはさまる花のしおり	信弥
折端 黒赤青とランドセル行く	むつみ